

その 7 本記事での製作品を活用して挑む 全市全郡コンテスト QRP 参戦記

JF3LCH 永井博雄



開始前設営時の様子

皆さん、こんにちは。FB ニュースへの投稿を引き受けた時には「半年も続けば上等かな」と思っていた本連載ですが早いものでその 7 となりました。これもお読みいただいた方々のおかげです。ありがとうございます。今回は過去に紹介した「自己くんれん的な自作品」を 10 月 9 日から 10 日にかけて行われた全市全郡コンテストに投入して、電信電話オールバンド QRP 部門に挑みましたので紹介します。

■1. 製作品を実戦投入

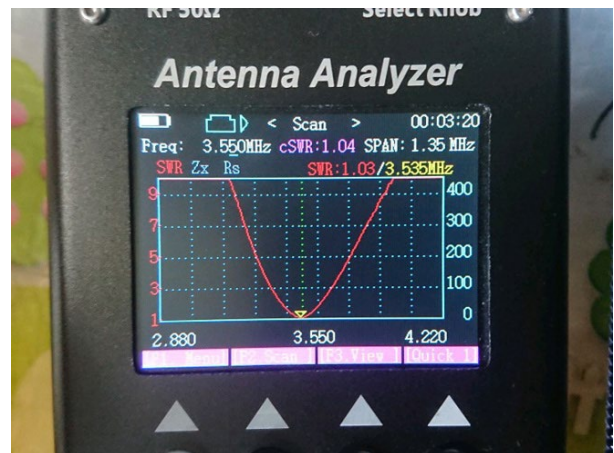
参加種目は、シングルオペレーターオールバンド QRP で参加することにしました。ALL JA コンテストでは、50MHz ポケットダイポールを使っただけの入賞を狙い惨敗しましたが、今回はオールバンドで参加です。マルチバンドは苦手ですので身の程を考えて入賞は狙いません。言い訳ですが元々 QRP オールバンドは強者局が多い部門です。IC-705 が発売されてからは、参加者は増加していて激戦区です。HF も含んで争われるので全国入賞しかありませんし、私のような軟弱者には入賞はかなり難しいと考えます。それでも自分で作ったものを活用してコンテストで運用するのは格別な気持ちよさがあります。その結果入賞できればさらに喜びが増しますが、おまけ程度に考え今回は参加することに意義を見出すこととおきます。QSO が増えれば比例してマルチが増える全市全郡コンテストですから、目標は 400QSO くらい出来ればそれなりのスコアになるのではないかと考えておりました。

運用場所は VUHF での飛びを考えて、出来るだけ高い場所にとということで奈良県吉野郡(JCG#24010)の 830m ほどの高さの山の中で運用を予定しました。お昼過ぎに現地に着。幸いにも他に同業者?は居なかったので運用場所の確保に成功いたしました。

■2. コンテストで使用した自作機材類

過去の製作品		
自作品名	記事掲載号	備考
50MHz ポケットダイポール	5月1日号	ダブルバズーカを使用するので 今回は不使用
コメット HFJ-350 二刀流V ダイポール化ユニット	7月1日号	ハイバンド用に使用
自作タイヤ踏みベース MY 郎	8月1日号 9月1日号	144/430 モービルホイップ用 ポールに使用
50MHz 折曲げダブルバズーカ	10月1日号	IC-703 と合わせ 50MHz 専用で使用

その他、自作ダイポールアンテナ2種類を持ち込み



3.5MHz ダイポールは 8m 伸縮ポールを使う



二刀流アンテナは 2 日目ハイバンド用



VUHF ホイップをつけた 3m ポールは MY 郎で固定



折り曲げ式 50MHz ダブルバズーカにはビバポール(6m)

このほか 3.5MHz には半波長ダイポール、7/14MHz にはギボシダイポールを使いました。これも自作品と言えば自作品になります。VUHF の自作アンテナは 430MHz 8 段コーリニアアンテナがあるのですが、144MHz は双ループアンテナくらいしかなく大きくて運搬や取り回しも難しいので、今回は市販のモービルホイップアンテナに頼ることにしました。



144/430MHz モービルホイップと 3m 伸縮ポール

ツイッターなどで最近話題の安くて手軽に移動運用に使うことのできる通称「ビバポール」。お掃除用品として 10 年以上前から売られていたのですが、何故だか最近になって人気が急上昇しています。多くの移動運用局が愛用していた伸縮ポールを取り扱っていた会社が撤退。残っているメーカーも値上げをしたりして購入しにくくなったせいなのでしょう。しかしこのポールは安いだけに使われているアルミパイプが細く、そのままでは 50MHz の HB9CV を揚げるのが精いっぱいといった感じです。

そこでこのビバポールでステーをとることができるようステーリングを取り付けてみます。



市販のステーリングを取り付け

ビバポール 6m のパイプ太さ

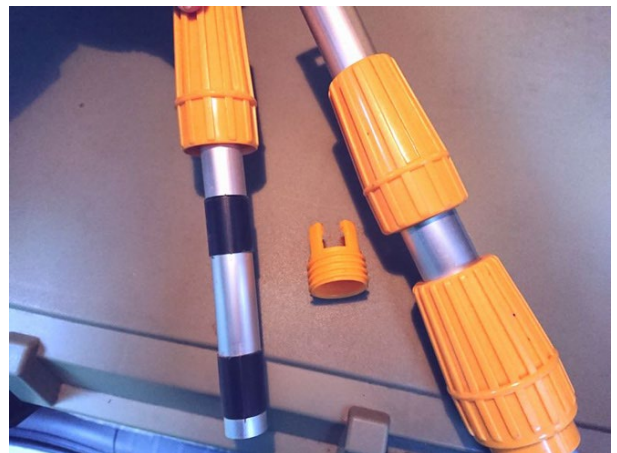
アルミポール	直径(外径 mm)
1 段目	φ21
2 段目	φ25
3 段目	φ28
4 段目	φ32

2 段目の φ25 パイプに市販のテレビアンテナ用ステーリングが入りそうなので取り付けます。ステー金具は規模の大きいホームセンターで購入。テレビアンテナ用品売り場で 300 円以下の価格で売られていました。



購入した DX アンテナのステー金具

一番上の締め付け樹脂を回して外し φ21 のパイプを引くと、抜け止めとなり引っかかる 4 本爪の付いたストッパー樹脂が出てきます。この爪をドライバー等でこじるとパイプが外れ抜け取れます。



パイプの黒帯部分が太くなっており爪が引っ掛かり抜けない仕組み

出てきた $\phi 25$ 先端からステーリングを入れて、ストッパーと締め付けリングを元に戻せば出来上がりです。



ストッパーを付けるか否かでステーを取る高さを変えられる

このようにしておけば風が強い日でもロープでステーが取れて安心です。タイヤベースがなくてもステーさえあれば 6m 高さまでアンテナを上げることが出来るので、今回は、50MHz ダブルバズーカを自立式で上げることにしました。

■3. 準備完了

リグは、QRP ということで IC-705 と IC-703 を使いました。ともに受信時も省電力で長丁場のコンテストに最適です。電源は、50W での移動運用を考慮して設計されたリチウムイオン電池のパックを使ったので、24 時間コンテストでも容量は有り余るほどでした。

16:00 過ぎには大体の準備が出来ましたので、あとは開始までゆったりと過ごすことにしました。コンテストではめったに飲まないアルコール(ビール系飲料)をいただきました。あまりお酒に強くない私なので、これがのちに響きました。

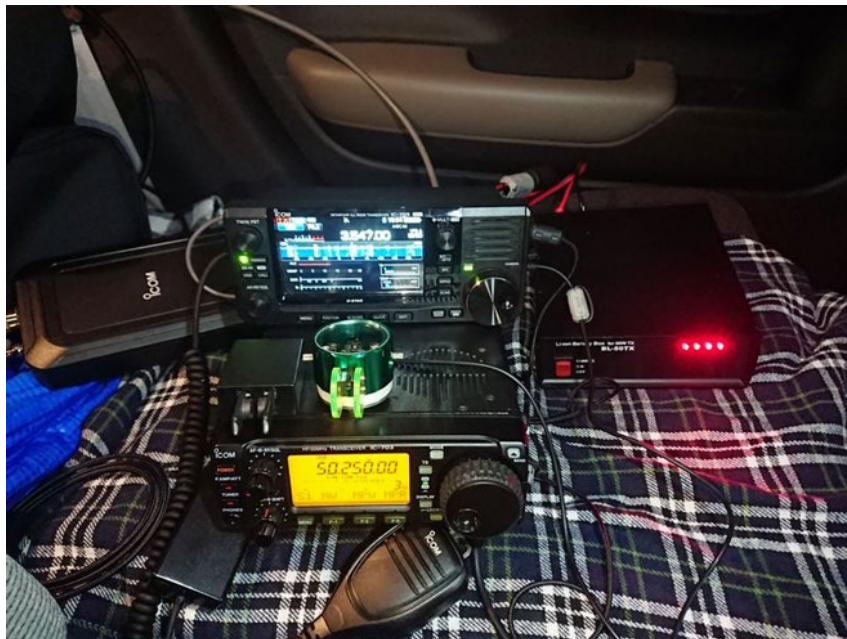


コンテストの前にお肉をいただき気合が入る

■4. コンテストがスタート

21:00 になりスタート。まずは折り曲げダブルバズーカの 50MHz SSB からスタートします。専用のダイポールを上げている 3.5MHz からスタートも考えたのですが、開始直後は賑やかで QRP でははじかれてしまうと考え、しばらくしてからの方が良いだろうと判断しました。CQ を出すのは効率が悪いと思い呼び回ります。パイルになっている局は呼ばずに少し空振りしているような局を呼ぶと応答率が上がります。50MHz はすぐに聞こえる局が QSO 済になったので 144MHz さらに 430MHz へと上がっていきましました。全市全郡ではそんなに遠くに飛ばさなくても市郡でマルチが増えていくので楽しむことが出来ます。それでも VUHF の 5W でも 9 エリアや 4 エリア最遠の山口県まで交信することができました。

VUHF 帯が一通り落ち着いたころ 23:00 頃から 3.5MHz 帯に下りていきます。バンド内も一通りの交信を終えた局が増えたのか 5W で呼んでも取り上げてもらえるようになっていました。それでも同時に呼ぶ局がいた場合はだいたい呼び負けてしまいます。これは QRP の宿命ですね。日が変わり 01:00 頃を前にして一時ウトウトしてしまい気を失ってしまいました。開始前のアルコール摂取など慣れないことをしたので疲れが出てしまったようです。



IC-705 と IC-703

気が付いたら 02:40 でした。慌てて 1.9MHz 帯に QSY します。このバンドは 3.5MHz のアンテナを AH-705 で無理やりチューンして使いました。まだ SSB にはたくさん局がいて強い局から呼んでいきますがやはり 5W の SSB、しかも「なんちゃってアンテナ」では辛いようで「QRZ?」の連続でした。それでもこの時間帯 4 局もの耳のいい方と交信することができました。何回ものコールにお付き合いいただきありがとうございました。ここまでの交信数は 110QSO で目標の 400 交信の達成は難しいかなという状況でした。再び 3.5MHz に戻りもう呼ぶ局がいなくなったところで睡眠をとることにしました zzz

■5. 巻き返しをはかるコンテスト2日目

目が覚めたら 06:00 をまわっていました。少し寝過ぎました。早速ワッチを開始します。早くも 430MHz で奈良県宇陀市(2412)の山の上から CQ を出されている元気な YL 局とつながりご機嫌に運用を再開します。まだこの時間なら使える 1.9MHz から順番に上に上がっていきます。07:00 にはもう 7MHz が賑やかな状態になっていました。ここでこれまで 3.5MHz のアンテナに AH-705 で無理やり 7MHz にチューンして使っていたのを降ろし 7/10/14MHz 対応ギボシアンテナを 8m 高さに換装しました。やはり同調したダイポールだと QRP でも快適に運用できます。CW モードを中心に QSO を増やしていきます。少し前まで 7MHz は朝夕でもコンディションが悪い日が多かったのですが、この日はずっと国内が聞こえていました。それがために 7MHz から離れられず、HFJ-350M ニ刀流アンテナの投入タイミングを逃してしまいました。あと一本ポールを用意すれば簡単に QSY することができたのですが、コンテスト前にちゃんと準備をして無駄な時間ができないようにしておかなければとつくづく思いました。



沢山の局がひしめく 7MHz CW バンド



雨となり撤収が心配

午後になって 50MHz で 8 エリアの何局かとつながりました。全市全郡コンテストの 50MHz で 8 エリアとつながるとは珍しいことですね。7MHz と同じくコンディションはいいようです。おかげで昨日は伸び悩んでいた交信数は順調に伸びてくれて、18:00 には 332QSO までになっていました。あと 3 時間で 400QSO に届くかも知れない、そう考えたら元気が出てきました。

夕方になれば再び 3.5MHz ダイポールを上げを考えていましたが雨が降りだしました。ヤバいなと考えていましたら暗くなる前に止んでくれました。急いで 3 バンドギボシダイポールを 3.5MHz ダイポールに載せ替えます。これでまた低いバンドでの運用が快適になりました。バンドごとに未交信の局を探し、いなくなれば QSY を繰り返し、と時間が過ぎていきました。

終了 7 分前に 3.5MHz の CW で CQ を出してみました。終了前にバンド内に未交信の局はいないかと探していた局が次々呼んできてくれました。終了直前なので皆さん早い速度で呼んでこられたので一発で取れないこともあり、何度も送信してもらい時間をかけさせてしまいました。申し訳ありません。

20:59 に最後の局とナンバー交換が終わった直後に 21:00 になり終了となりました。残念ながら総交信数は DUPE を含めて 387QSO と目標まであと少しでした。しかし途中達成をほとんど諦めていたので、結構いい線まで出来て満足感を得られる結果となりました。

■6. まとめ

50MHz ダブルバズーカでは 58QSO することが出来ました。E スポでは 8 エリアと、グランドウェーブでは東は山梨県、西は山口県と交信することができました。先月の記事公開前に移動した時には 1 エリアとは交信できませんでしたが、今回は意願の 1 エリアと繋がることができうれしく思います。

対照的に二刀流アンテナは設営・調整が煩雑でコンテストには向いていないというのが正直な感想です。コンディションのタイミングもありますが 5W ではかなり厳しいものがありました。もちろんこれだけで色々なバンドに出ることが出来るのは大きなメリットですが、限られた時間内に QSY するにはちょっと面倒だと感じました。

タイヤベース MY 郎は天気も安定していたので、特に問題になることはありませんでした。小さな愛車で多くの機材を運ぶのに荷室を犠牲にすることなく、コンパクトで手軽に運ぶことが出来て言うことなしです。

コンテスト最後の CQ では結構呼ばれましたが、期間中ほぼ未交信局を探して呼んで回る運用に終始かなり疲れてしまいました。バンドによって QRP でも CQ を出し目立つことが出来る時間帯など、もっとよく考えて行動すればスコアアップできるのではないかと思います。このスコアで自分がどのくらいのレベルなのか？ まだ未熟ですが自分のレベルがハッキリするのも楽しみに結果発表を待ちます。

このような感じで入賞を狙うとかではなく、自作品をコンテストで使って楽しむのもいいものだと思います。皆さんも何か自作した物でコンテストに参加してその性能を確認してみてはいかがでしょうか。新しい楽しみの世界が開けるかも知れません。